



巻頭言

心臓血管外科 特命教授 / 桑木 賢次^{くわき けんじ}



当院 心臓血管外科のご紹介

心臓や血管の病気は、時に命にかかわる重い疾患であり、高度な専門性と迅速な対応が求められます。当院心臓血管外科では、2014年の開院以来、安全で質の高い外科治療を通して、地域の皆様に信頼される医療を提供することを目指してまいりました。

専門性の高い診療体制で心臓・血管疾患に対応します

現在は7名の医師が診療に携わり、そのうち5名が学会認定の心臓血管外科専門医です。豊富な経験と新しい知見に基づいた医療を提供しています。また、若手医師の育成と高い専門性の次世代へ継承も大学病院の大切な使命と考えています。

当科では、狭心症や心筋梗塞などの冠動脈疾患、心臓弁膜症、大動脈瘤・大動脈解離などの大血管疾患、下肢閉塞性動脈硬化症や下肢静脈瘤など、成人の心臓・血管疾患を幅広く診療しています。また、成人先天性心疾患に対する専門診療にも対応し、それぞれの患者さんに最も適した治療法をご提案しています。

近年は、身体への負担をできるだけ軽減する低侵襲治療が進歩しています。当院でも、大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術（カテーテルで行う血管内治療）や、小さな傷で行う低侵襲心臓手術（MICS）を積極的に導入しています。一方で、緊急手術を必要とする重症の心臓・大血管疾患に対しても24時間体制で迅速に対応し高度急性期医療も担っています。開院以来これまでに経験した心臓血管外科の総手術件数は3000例以上になります。

チーム医療で患者さんを支えます

心臓血管外科の医療は、術前の詳細な全身評価から手術、集中治療、リハビリテーション、退院後の生活支援まで、さまざまな専門職が連携して初めて安全で質の高い医療が実現します。当院では、循環器内科、麻酔科、集中治療科、リハビリテーション科など患者さんに必要な関係診療科と緊密に連携するとともに、看護師、臨床工学技士、薬剤師、理学療法士、管理栄養士など多職種が専門性を持ち寄り、一人ひとりの患者さんを支えるチーム医療を実践しています。これは当院が長年大切にしてきた医療の姿勢であります。

安全・安心・高品質な医療を目指して

私たちは、地域の医療機関との連携を深めながら、高度医療を必要とする患者さんに最善で安全かつ質の高い治療を提供するとともに、安心して治療を受けていただける環境づくりを大切にしています。心臓や血管の病気についてご心配なことがありましたら、どうぞお気軽にご相談ください。



第149号のトピックス

- ・巻頭言（心臓血管外科）
- ・公開講座連携記事（眼科）
- ・フォーミュラE世界選手権 医療活動報告
- ・第23回公開講座開催のお知らせ
- ・富岡八幡宮例大祭神輿連合渡御の接待所を設置しました
- ・ご意見・ご要望
- ・編集後記

テーマ「加齢と眼」

眼科助教 / ふじかわ ほなみ
藤川 穂奈美

1. はじめに：眼のエイジングとは

眼は「脳の神経と繋がっている器官」と言われます。加齢は生理的な機能低下をもたらしますが、特に視機能は日常生活の質（QOL）に直結します。視力低下や視野障害を招く代表的な 3 疾患について、病態の理解と予防・早期発見の重要性を解説します。

2. 白内障：水晶体の濁りと「光」のコントロール

白内障は、カメラのレンズに相当する「水晶体」が濁る疾患です。

病態： 加齢により水晶体内のタンパク質（クリスタリン）が変性・凝集し、光の透過性が低下します。

症状： 霧がかかったような見えにくさ、眩しさ（グレア）、コントラスト感度の低下が特徴です。

白内障は老化現象の一部であり、誰にでも起こり得ます。現代の白内障手術は極めて安全性が高く、単に濁りを取り除くだけでなく、多焦点眼内レンズの選択により「術後の生活の質」を向上させることも可能です。見えにくさを我慢せず、適切な時期に手術を検討することが肝要です。

3. 緑内障：静かなる「視野」の喪失

緑内障は、視神経がダメージを受け、視野（見える範囲）が徐々に狭くなる疾患です。

病態： 主に眼圧による視神経への圧迫が原因とされますが、日本人の多くは眼圧が正常範囲内であっても発症する「正常眼圧緑内障」です。

症状： 非常にゆっくりと進行するため、初期には自覚症状がほとんどありません。片方の眼がカバーしてしまうことが多く、異常に気づいた時にはかなり進行しているケースが多々あります。

一度失った視野を元に戻すことはできません。緑内障治療の基本は「これ以上進行させないこと」。定期的な眼底検査と視野検査によって早期発見し、点眼薬を中心とした治療で眼圧をコントロールし続けることが、生涯を通じた視機能維持の鍵となります。

4. 加齢黄斑変性（AMD）：中心視力の守り方

網膜の中心部である「黄斑」が加齢によりダメージを受ける疾患です。

病態： 加齢に伴う老廃物の蓄積（萎縮型）や、異常な血管が網膜下に伸びる（滲出型）ことで、中心部の視力が低下します。

症状： 物が歪んで見える（変視症）、視野の中心が暗く欠ける（中心暗点）といった症状が現れます。

特に滲出型は進行が早いため、早期の抗 VEGF 薬の眼内注射が不可欠です。最近では、サプリメント（AREDS2 処方）による予防や、日常生活でのセルフチェック（格子状の表で歪みがないか確認）の重要性が広く認知されています。中心視力の喪失は読書や趣味、車の運転に多大な影響を及ぼすため、異常を感じたら即座に専門医を受診していただきたい疾患です。

5. まとめ：健やかな視覚を維持するために

加齢は避けることができませんが、これらの疾患を「正しく理解し、定期的に検診を受けること」で、その影響を最小限に抑えることは十分に可能です。

我々眼科医の役割は、単に病気を治すことだけでなく、患者さんがその方らしく、長く豊かな視覚生活を送れるようサポートすることにあります。「少し見えにくい」「いつもと違う」という些細な違和感を大切にし、ぜひ定期健診を日々の生活習慣に加えてみてください。

フォーミュラE 世界選手権 医療活動報告

7月25日(土)・26日(日)の2日間、東京・江東区の有明地区において、世界最高峰の電気自動車レース「フォーミュラE 世界選手権」が開催されました。同大会は今年、初のナイトレースとして実施され、東京ビッグサイト周辺の公道が特設コースとなりました。当院からは泌尿器科の森田教授が医療スタッフとして現地に派遣され、医療活動を行いました。

本年もFIA フォーミュラE 世界選手権 Tokyo E-Prixが有明の特設市街地サーキットで開催され、メディカルセンターの医師として出向しました。今回からナイトレースとなり、金曜日が練習日、土曜日と日曜日にそれぞれ予選・決勝を行う2レース制のフォーマットで実施されました。ナイトレースとはいえ、スタッフ等の関係者は午前中から動いています。あいにく日中は酷暑、夕方は短時間の雷雨という気候が毎日続き、数名の体調不良者に対応することとなりました。うち1名は当院の救急センターを受診しています。

また、今年から導入した病院救急車は、レース中のメディカル待機車両として活躍したほか、サーキット内におけるオフィシャルの体調不良者搬送にも重宝されました。

来年も開催が決定しており、より充実した医療体制の構築に貢献できればと考えております。

(泌尿器科・森田教授より)



Pick up

第23回公開講座開催のお知らせ

10月12日(月・祝)に第23回昭和医科大学江東豊洲病院公開講座を開催いたします。皆様のお申込みをお待ちしております(受講100名まで)。

開催日時：令和8年10月12日(月・祝) 14:00~16:30 受付13:45から

開催場所：昭和医科大学江東豊洲病院 9階講堂

『暮らしと健康・あなたのアイを見つめなおす 一大切な目と長く寄り添うためにー』

演題：「加齢と眼」

演者：昭和医科大学江東豊洲病院 眼科 助教 藤川 穂奈美(ふじかわ ほなみ)

演題：「目のセルフチェックとセルフケア 一目の健康寿命をのばそうー」

演者：昭和医科大学江東豊洲病院 視能訓練士 園部 大輔(そのべ だいすけ)

申込：受講のお申し込みは、**9月25日(金) 13時から**

☎03-6204-6000(代表) 昭和医科大学江東豊洲病院管理課

費用：無料

主催：昭和医科大学 後援：江東区



富岡八幡宮例大祭神輿連合渡御の接待所を設置しました

8月15日（土）、富岡八幡宮例大祭の神輿連合渡御が開催されました。このお祭りは江戸時代から続く由緒ある夏祭りで、沿道から神輿や担ぎ手に清めの水をかける「水かけ祭り」として有名です。当日は大人神輿の豊洲町内巡行もあり、担ぎ手も観衆もみなずぶ濡れになりました。

当院は病院前に休憩接待所を設置し、ジュース等の飲み物を振る舞い、病院職員らも水を浴びながら元気に大人神輿を担がせていただきました。



ご意見・ご要望

ご意見	回答
生理検体室の横にあるトイレのゴミ箱を設置してほしいです。採血後の絆創膏やティッシュなどを捨てるのに不便です。 	この度はご不便をおかけし、大変申し訳ございません。また、貴重なご意見をいただき、ありがとうございます。ゴミ箱を設置しました。 回答：管理課

編集後記

厳しい暑さも少しずつ和らぎ、朝夕には秋の気配を感じられるようになってまいりました。一方で、真夏のような暑さが戻る日もあり、寒暖差から体調を崩しやすい時期でもあります。十分な休養と睡眠を心がけ、元気に実りの秋を迎えましょう。

さて、9月1日は「防災の日」です。各地で発生する地震などの災害はいつ起こるかわかりません。非常用品の点検や避難場所、ご家族との連絡方法など、この機会に見直してみませんか。

また、災害時には避難生活中的体調悪化による「災害関連死」も大きな課題です。特に車中泊などで起こる「エコノミークラス症候群」を防ぐため、避難時はこまめな水分補給や足を動かすストレッチを心がけ、ご自身と大切な方の健康を守りましょう。



リハビリテーション室
保坂 亮



昭和医科大学江東豊洲病院 <http://www.showa-u.ac.jp/SHKT/>
〒135-8577 東京都江東区豊洲 5-1-38
TEL03-6204-6000(代表)
発行責任者：横山 登 編集責任者：大槻 克文



昭和医科大学江東豊洲病院
ホームページ